

母子保健・教育

授業概要

母親の妊娠・出産から育児、小児期（障害児を含む）、思春期、青年期の発達に関して、医学、心理学、看護学、教育学の各方面から、研究法、問題点と対策について概説する。

担当教員

稲垣卓司（主担当） 教授・教育学部（心理・発達臨床講座）

授業の形式

講義形式を基本とする。

教育内容

1. 思春期、青年期の性に関する意識と行動、妊娠・出産およびその後の母性意識の発達と母子の健康に与える影響について考察し、母子とその家族の健康を保持増進させるためのケアについて学習する。
2. 母親の妊娠・出産期における精神的問題について理解する。
3. 育児におけるストレスについて理解する
4. 小児期の発達について正常発達と発達障害について理解する。
5. 思春期・青年期における、心身の発達並びにこの時期に生じやすい心身の問題について理解を深める。

成績評価の方法

講義内容に関するレポート課題で60点以上を合格とする。

使用テキスト・参考文献

講義内で適宜参考文献を紹介する。